

# 月刊 小林のぶゆき

第4号  
2011年4月発行号

見える  
わかる  
変わる  
今こそ横須賀を  
私たちのものに



無所属35歳



発行人 小林伸行 小林のぶゆき 検索  
住所 横須賀市野比2-13-18  
☎ 070-6640-3927  
FAX 050-3737-1652  
✉ info@kobayashinobuyuki.com ↑  
Web http://kobayashinobuyuki.com  
野比在住。1975年(昭和50年)9月3日生。妻と息子の3人家族。筑波大学卒。地域情報誌勤務の後、環境コンサルティングに携わるが、地域の疲弊と日本の将来を憂い、政治を志す。2008年、政策秘書資格試験合格。衆議院議員長島一由(前逗子市長)公設秘書を経て現在に至る。地域通貨イタッチ事務局長など市民活動にも関わる。

## 第一特集 震災後特別編集

### そのとき、横須賀は……。

大震災が起きたとき、横須賀市はどうなるのか？

## 第二特集

### 大震災に備えはあるか？

横須賀市には、どんな災害対策が必要か？



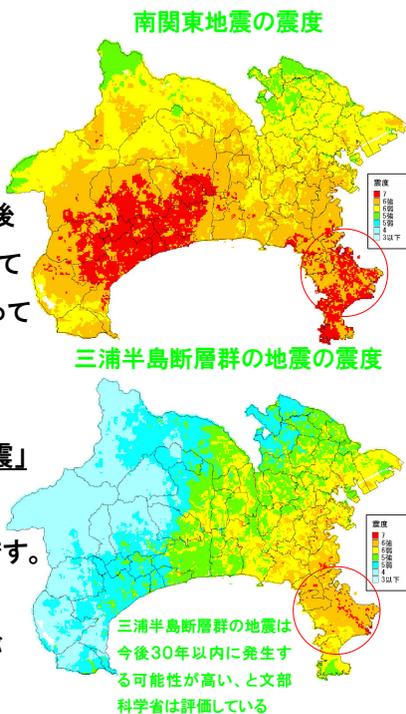
## 第一特集 そのとき、横須賀は……。 大震災が起きたとき、横須賀市はどうなるのか？

3.11の東日本大震災による犠牲者と被災者・被曝者のみなさまには心よりお見舞い申し上げます。時計は巻き戻せない以上、今回の被害を教訓にして今後活かすことが、私たちの責任でもあると思います。

### 2つの大震災に注意

いざ大震災が起こったら、横須賀市ではどんな被害があるのか？ 神奈川県が今後起こりうる大震災の予測をしているので、特に横須賀に絞って見ていきたいと思います。\*1

横須賀にとって、特に注意すべき大震災は「南関東地震」(関東大震災の再来型)と「三浦半島断層群の地震」です。右図の赤い部分が震度7、オレンジが震度6強、黄色が震度6弱と続きます。



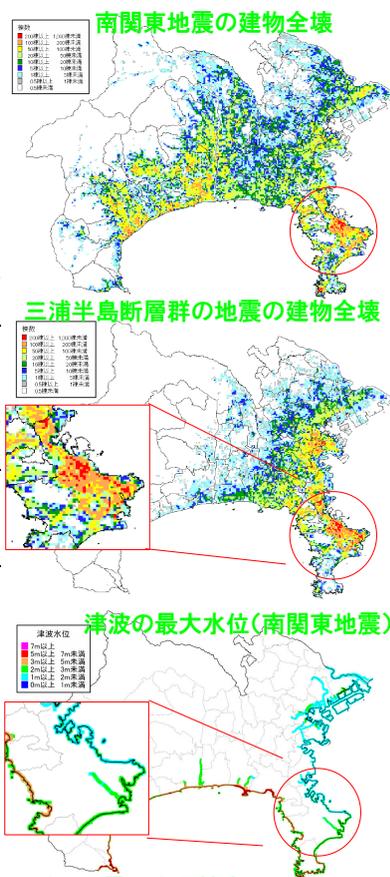
### 横須賀市の被害はどのくらい？

このときの被害予測を内閣府がまとめているので、横須賀市の部分だけ整理してみました。(下表↓)\*2 今回、三陸沖で起きた巨大地震を考えると、もっと大きい被害も想定する必要があるかもしれませんが、ひとまず現時点の予測がこれです。

横須賀市内の被害予測	最大震度	死者数 (冬18時)	負傷者数 (冬18時)	建物全壊 揺れ+液状化	建物半壊 揺れ+液状化	建物火災 最大消失数	電力 停電軒数	上水道 断水世帯数	電話通話 支障回線数
南関東地震	7(M7.9)	1,730	44,900	82,760	30,650	24,680	225,910	138,250	370,130
三浦半島断層群	7(M7.2)	1,980	50,060	88,900	26,430	18,380	216,410	147,180	304,430

### 被害が大きい横須賀

どちらの場合も県内で最も多く死者が出るのは横須賀市で、甚大な被害が予想されます。横須賀市は41.7万人、16.5万世帯ですから、8~9人に1人が死傷し、相当数の建物が倒壊する予測です。また大部分の家や職場で電気や水などライフラインが止まるほか、道路も寸断されます。さらに、南関東地震の場合、地震からわずか5分で3~5mの津波が相模湾側に押し寄せます。(直下の三浦半島断層群の地震の場合、津波被害は少ない) こうした大震災への備えは、大丈夫なのでしょうか？ 続きは裏面で取り上げます。



### 南関東地震の交通被害

### 三浦半島断層群の地震の交通被害



\*1 神奈川県地震被害想定調査委員会「神奈川県地震被害想定調査報告書」平成 21 年 3 月 \*2 内閣府「都道府県別地震被害想定概要集」平成 22 年 6 月



「自宅の耐震性に不安がある方へ。市では住宅の耐震診断・補強工事への補助制度もあります。条件等は都市部建築指導課 046-822-8319 まで」

今回の東日本大地震の被害から、横須賀市が学ぶべきことは何か？ 横須賀市は、他の市町村と比べても、震災に対して備えていたほうだと思います。しかし、今回の震災対応では不備もみられましたし、想定規模など見直しも迫られるでしょう。

## (1)指定避難所など「津波ハザードマップ」の見直し

今回の被災地では、「ここまでは津波も来ないはず」と選んだ指定避難所すら波に飲み込まれ、避難した人までが流されました。「想定外」を「想定内」にしなければなりません。

市では南関東地震に備え「津波ハザードマップ」を作成していますが、想定している津波は4m程度。本当に大丈夫なのか？

県内の沿岸部13市町も、津波規模の再検証を県に求めており、見直しが必要です。



「津波ハザードマップ」浦賀・久里浜地域版

## (2)警報・広報の強化を検討

地震直後、みなさんに防災無線や広報車による避難警報は聞こえたでしょうか？ 私には聞こえず、大津波警報が出ているのも知らないで海近くの道で渋滞にはまっていました。市は今回「津波ハザードマップ」で被害が想定された地域に絞って広報車を走らせており、対応は特に問題はなかったと思います。ただし、もし津波がもっと大規模だったら、より広範囲に避難警報を伝える必要がありますが、はたして可能なのか？

市内には防災無線が405局あり、約1000人に1局の割合ですが、それで十分伝わるとは思えません。「消防テレホンガイド」(046-825-0119)も、今回のように停電や回線パンクすれば無意味です。現時点の最も確実な自衛策は、「防災情報メール」に自分のケータイアドレスを登録するしかありません。

市役所以外は停電で使えないのに、市役所からFAXで避難に関する連絡を送っていたという笑えない話もあります。

警報・広報のあり方をもう一度検討する必要があります。



## (3)事業継続計画(BCP)を用意しておく

最近では、災害やテロに備えて「BCP」(Business Continuity Plan:事業継続計画)を用意しておく企業が増えています。これは「いざというときでも、事業への影響を最小限にして、なるべく事業を継続できるように、あらかじめ計画をたてておく」というものです。実際に、今回の被災地でもBCPを作っていた企業は操業再開が早かったそうです。

同様に、自治体でもBCPが整備されつつあります。被災地では、役所や職員が流されて機能しなくなった自治体も多いようですが、もしBCPがあればある程度カバーでき、混乱を減らせたかもしれません。横須賀市の場合、新型インフルエンザ対応のBCPは策定済ですが、地震や津波など自然災害に備えたBCPは準備中でした。それでも横須賀市は先進的なほうでしたが、一刻も早くBCPを整備しておきたいものです。

## (4)「陸の孤島」を減らすため、コンパクトシティへ

第一特集のグラフでも「横須賀市は震災にもろい」ことがわかります。谷戸が多く平地の少ない横須賀で大地震が起きれば、あちこちで崖崩れし、道路が寸断されます。そうなれば、救急車両が駆け付けられない「陸の孤島」も多くなるでしょう。どうすればいいのでしょうか？

もちろん、崖崩れが起きにくいように擁壁工事など対処する必要はあります。「横須賀市地域防災計画」(平成21年度)では道路の拡張や防災トンネル整備も掲げています。しかし、将来を考えれば「これ以上、谷戸の奥まで住宅開発をしない」ことも検討すべきです。斜面緑地保全や行政コスト削減の意味でも理にかないます。防災の観点でも、やはり横須賀の目指すべき方向は「コンパクトシティ」ではないかと思えます。

横須賀市「防災情報メール」への登録をオススメしています。詳しくはWeb参照 <http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/2005/mailmaga/bousai.html> ですが、←[bousai-yokosuka01-t@k taiwork.jp]にケータイから空メールを送れば即登録！

あの震災の日の夜、市内の大部分が停電していました。ロウソクの明かりを見つめながら、みなさん色々なことを考えたことと思います。私は生まれ故郷、福島の惨状を思いながら「この震災を境に、古い日本が終わり、新しい日本が始まる。自分も、新しい日本を創るために自分を捧げよう」という思いを新たにしました。

日本の復興のためには、与党も野党も関係ありません。大連立を組むかどうかはともかく、国では力を合わせて取り組んでほしいと思います。

そして、横須賀市を良くするために、党派も市長派も関係ありません。ただ一つだけ、確かなのは「変わらなきゃいけない」ということです。今までの政治家が、今までどおり何もしなければ、いずれ横須賀は社会経済の津波に沈みます。

自分の身を切っても、本気で横須賀のために働く人を、今こそ選ぶときです。

小林のぶゆき



## 応援してください！

- チラシのポスティング
- 駅でのチラシ手配り
- 事務作業
- ご自宅への看板設置

常時、様々な手が必要です。「応援してあげてもいいよ」と思って下さった方は、お気軽にご連絡下さい。

※政治献金・寄付は頂いていません。

横須賀市政について、私の活動について、みなさまのご意見、ご提案、ご感想、疑問などお寄せください。必ず私、小林伸行が自分で目を通します！

E-mail: info@kobayashinobuyuki.com Fax: 050-3737-1652

## 小林のぶゆきの基本政策

**見える** 誰が何をどう決めているのかわかんない……。市政をガラス張りにして「見える化」し、意思決定の過程も含め情報公開を進めます。

**わかる** 難しい説明をされてもよくわからない……。いま何が問題なのか。いま何が必要なのか。チラシなどを通してわかりやすくお伝えします。

**変わる** これまで何も変わらなかった。どうせ変わらない……。現状が見え、問題がわかれば、変えられます。私たちが払った税金が、私たちに本当に必要なことに使われるよう、変えていきます。

今こそ横須賀を 私たちのものに。

